

賃貸特集⑥ ———— さまざまな賃貸物件

「夢」広がる空間

県内「デザインマンション」事情

ヴィジョンハウスの場合

五年前に建てられた「ヴィジョンハウス(浦添市)」は、広いLDKと吹き抜け、大きな窓があるメゾネット(二階建て)タイプの賃貸住宅。従来の賃貸住宅のように、廊下に沿って玄関が並ぶタイプとは違い、二階建てを二層に重ねた造りを三つのブロックで構成する全十二世帯。玄関へ至る外階段を二世帯で共有しており、三面採光で、独立性を高めた造りになっている。

ほこり持てる賃貸住宅

オーナーの当山さん夫妻は、「せっつく造るのだから特徴ある建物にしたかったんです。でも当初、土地の持ち主で出資者でもある両親は、ごく普通の建物を希望しており、説得に時間がかかりました」と話す。高齢になると思うように農業はできなくなるだろうと、将来の安定的な収入を



分棟式なので独立性が高い上、三面採光が実現



テラス側からキッチンを見る。軽やかなデザインの階段がおしゃれ。二階手前の部屋はオープンになっている

確保するために土地の有効活用を計画した当山さん。親子間の「賃貸住宅」の形にはギャップがあった。「変わっている」と借り手がいないのでは、家賃設定はどうなるのかなどの疑問もありましたが、それ以上に、「夢のある住まい」を提供したかったんです。自分が住むならとの視点で造り、わたしたちも、住む人も、わたりが持てる賃貸住宅を目指しました。建物の良さを理解して、丁寧に、長く

人・建物・まちも元気

住んでくれる人々が集まったら、すてきでしょ」ヴィジョン(「未来展望」)のアパート名にはそんな気持ちが入められている。一方、建築士の福村俊治さんは、オーナーの思いを明らした室内や吹き抜け、南側テラスなど、住み手の個性が反映できる空間構成で、既存の枠にとらわれないデザインながら、ローコストを図ったプランとな

楽しめる部屋だから

入居して一カ月半になる仲村さん。決め手は、職場に近い点と「おしゃれだから」。数回の引越経験があるが、これまでと違い、ムダ部屋が出ない点も気に入っている。「通常のLDKタイプだと、どうしても物置になる部屋があるんで

「規格アパートの方が安いと思われがちだが、デザイン性とコスト圧縮は相反するものではない」と話す。ローコストの手法は構造の工夫や仕上げの簡素化などさまざま。要は、雰囲気を楽しめる空間構成がカギということだろうか。しかし、このような賃貸住宅は、県内にはまだ少ない。福村さんは「個性ある人々が個性ある建物に住めば、まちは元気になる」とも語り、賃貸住宅から人とまちの関係を考えてみるのもよいのではと提案した。

今後注目!!

管理を行う㈱琉信ハウジングの担当者は、「入居者募集を出す」と問い合わせが多いですね。不況の影響が家賃で決める人も多いですが、豊かさへの要望が強いのも事実。今後新しい賃貸の形として注目されるであろう」と分析する。



キッチン側からテラスを見る。吹き抜けと広い開口部とがより一層、開放感を誘う